

ガールスカウトやまなし



生きるが育つ。
ガールスカウト

一般社団法人
ガールスカウト山梨県連盟

〒400-0811 山梨県甲府市川田町 517 山梨県青少年センター内
TEL&FAX 055-228-6637 E-mail:gs-ymnsi@comlink.ne.jp

No. 03・04

発行/平成 26年 3月 31日

アワシャレー スイスチャレンジ

平成 25年 7月 29日～8月 10日

アワシャレーガールスカウトセンター

県内のスカウト 16名とリーダー4名が、2013年夏 スイスアワシャレーで行われた【スイスチャレンジ6】に参加しました。世界中から集まった約100名のガールスカウト仲間と交流しながら、アワシャレーのサマープログラムを体験し、“ガールスカウトである喜び”を存分に味わい、一回りも二回りも大きくなって帰国しました。



「私は本当にスイスに行きたいんだろうか？」部活との両立に不安を感じ、直前まで悩んで周りの方に心配や迷惑をかけながらの渡欧でした。しかし、スイスでの13日間は悩む間もないほど目まぐるしく、楽しい毎日で、スイスチャレンジに参加することに協力してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいでした。お土産よりももっとも大切なものを持ち帰ることができました。

2団レンジャー 渡邊 日菜子

スイスでの13日間は自分を試す試練のまさに「スイスチャレンジ」でした。海外のスカウトとの交流は何よりも楽しい時間で、グローバルな価値観は視野を広げてくれました。国籍の壁はすぐ乗り越えられましたが、英語がなかなかうまく伝わらず、悔しい思いをしました。様々な国のたくさんの人達とディスカッションできるようになりたい！と英語学習へのモチベーションが高まりました。また、アブセイリングや、ウォーターライダーなどのアクティビティを満喫し病みつきになってしまいました。

スイスチャレンジの体験を糧に寄り一層がんばれると確信しました。

13団レンジャー 功刀 彩



2014年度 スイスチャレンジ研修会

平成 25年 3月 29日～30日
愛宕山少年自然の家



2014年夏のスイスチャレンジに向けて、既に研修会が始動し始めています。第4回事前研修が愛宕山少年自然の家で、1泊2日の宿泊形式で行われ、スカウト8名と前回スイスチャレンジに参加したリーダー3名、そしてプレゼンテーションで着る浴衣の着付けの講師に、中込事務局長にもご協力頂きました。英会話のレッスンにも力を入れています。英語の勉強はなかなか難しいけれど自分の言葉で気持ちや考えが伝えられたら嬉しい！！そんな想いを胸に頑張っています。

1 団・4 団・13 団合同キャンプ

平成 25 年 8 月 9 日～11 日
武田の杜キャンプ場/甲府市

テーマ 「できる自分に一歩前進！～楽しもうガールスカウトキャンプ～」

甲府市内の 1 団・4 団・13 団で合同キャンプを行いました。合同キャンプこれで 2 回目となります。キャンプを通して何かひとつでも新しいことができるようになって、自分を成長させよう！そしてなにより、ガールスカウトならではのキャンプを思い切り楽しもう！という思いをテーマに込めました。参加者はブラウニー 11 人、ジュニア 7 人、シニア 5 人、リーダー・スカップ 18 人でした。1 日目は設営、ナイトハイクと天体観測。2 日目はご父兄が見学に来るオープンデーだったので、おもてなしのためのバームクーヘン作りや机・看板のキャンプクラフトを作り、夜はキャンプファイヤーでした。3 日目は撤営やゲーム大会を行いました。3 カ団が集まってやっと 1～2 パトロールが作れたので、パトロール活動を行うという意味でも合同で行ってよかったと思います。来年もまた合同で行おうという話もできています。



パトロールリーダーをがんばりました。来年はジュニアなのでテントでねるのが楽しみです。

1 団ブラウニー 上原 茉莉香



パトロールの人数が少なかったけど、みんな協力して楽しく過ごせました。旗揚げが出来てうれしかったです。

4 団ジュニア 田辺 由佳

私はこの三日間たくさんの方の事を学ぶことができました。シニアでは、朝の司会などの仕事がありました。人数が少なく出し物には少し戸惑うところもありました。次のキャンプまでには、いろいろなハンドゲームを勉強しておきたいです。

13 団シニア 高野 七海

10 団・15 団合同キャンプ

平成 25 年 7 月 25 日～28 日
緑と太陽の丘キャンプ場/上野原市

テーマ 「パトロール精神、自己開発、人とのまじわり、自然とともに」を培おう

会員の減少でパトロール中心に動く機会が減りつつあるなか郡内の 2 ケ団で行った合同キャンプはとても有意義でした。テント張りやキャンプクラフトはもちろんのこと、水の大切さを再確認するために食事にかかる水を制限したエコキャンプに挑戦。スカウトの創意工夫とアイデアに驚かされました！蒸し暑い中でのテント張り。川遊びやキャンプファイヤーの時に限って雨と風！！自然の力には逆らえずキャンプファイヤーは室内開催。このような日程の中、スカウトたちはパトロールで協力しあい、ともに涙を流しながら、また 1 つ大きく成長したと感じました。



ガールスカウトギャザリング



山梨県連盟ギャザリング

平成 25 年 7 月 14 日～15 日 習志野市立富士吉田青年の家

テーマ girls worldwide say “一緒になら、この世界を変えられる”

サブテーマ: Made in 山梨～みつけてみよう！今できること

ギャザリング1日目は丸山 久美子リーダーによる

【フレンズのネパール活動についての基調講演】

2日目は基調講演のあとからパトロールごとに行われた分科会をもとに「私たちに今できること」を全体会で発表。とても有意義な話し合いになりました。

ネパールについて学び、パトロールで話し合いました。これからの生活にギャザリングで学んだことを役立てられるようにしたいです。
10団 ジュニア 池谷 和奏



初めて参加した連盟ギャザリングは連盟キャンプと同じくらい大切な行事であると分かった。参加することで団で行っている募金やエコキャップ活動等がより意味のあるものとなるし何よりそこで得たものは大きいからだ。次はもっと多くのスカウトに参加してもらいたい。そして参加するよう呼びかけたい。
15団 リーダー 幡野 ちえ



初めてのギャザリングで不安がいっぱいでしたが、すぐに話し合いが活発にできたり、リーダーが優しく接してくれたりしたので安心しました。友達もたくさんでき、とても楽しかったです。

1団 ジュニア 榎本 彩七

私はネパールがどこにあるかも知りませんでした。しかし、このギャザリングでネパールには貧困で学校にも行けない子供たちがいて、かわいそうな気持ちになりました。日本は恵まれています、これからはネパールの方々のことを考えて行動していきたいと思います。
19団 シニア 山田 京佳



南関東地区ギャザリング

平成 25 年 12 月 21 日～23 日

国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ girls worldwide say “一緒になら、この世界を変えられる”

基調講演 和田 照子氏(ガールガイド・ガールスカウト世界連盟理事)

『教育』の分科会に参加し「今の子供」について考えた。「今の子供」はインドア派で、人の意見に合わせる協調性はあるが、反面 自分の意見が言えない。「今の子供たちに足りないものを補う力がガールにはある」ガールのオープンディを設け、スカウティングを通して交流する中で意見を出すことにも抵抗がなくなるのではないかと結論に至った。

南関東の仲間と議論をし、とても有意義な時間を過ごせた。

19団 レンジャー 竹下 あゆみ

南関東ギャザリングは2回目の参加。『森と調和ぶ(あそぶ)』をテーマに問題点や、企画など同じ意見や興味を持つ同士、その分野について調べ、話し合うことで個々の考え方や、いろいろな興味深い意見を聞くことができとても充実した3日間だった。またレンジャーになるとたくさんの意見が出て、話題も膨らむのでとてもスムーズに分科会を進めることができた。次の南関は山梨開催なのでさらに充実したものになりたい。

6団 レンジャー 宮下 華々

初めてこのような大きな行事に参加した。参加者が多く出る意見も多いし、今までにない意見もあってとてもいい刺激になった。

何よりうれしかったのは他県のスカウトと仲良くなったことだ。

パトロールリーダーもさせてもらい、自分なりに成長できたのではないと思う。

私たちのパトロールでは『知ろう！作ろう！食べてみよう！旬の食材を使った料理教室』だった。

栄養への関心を高めるとともに国産品の良さを知ってもらいたいという狙いがあった。

19団 レンジャー 中村 優里

全国ギャザリング

平成 26 年 3 月 21 日～23 日

国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ girls worldwide say “一緒になら、この世界を変えられる”

サブテーマ: つなガール その先へ！



南関東地区では、世界の問題に目を向ける前に、今日日本で起きている東日本大震災の復興について目を向けてみた。活動名は『ハッピープロジェクト～助け合いでつなガール～』期間は平成 26 年 4 月 1 日に実行委員会を立ち上げ、復興が完了するまで…とした。

被災した県のスカウトや、親族に話を聴き、現地の調査をする予定になっている。

同時に書き損じハガキや、ベルマークの回収をして資金を集める。

7月中旬に実行委員会を開催し、調査内容を基にして送り先と物資を決定するという流れになっている。

山梨県連盟の担当は、まだ大まかだが情報管理をし、各活動の写真を管理することになった。

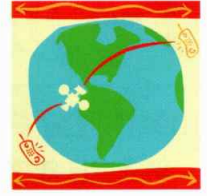
今回のギャザリングに参加して、自分が高校へ進学できることのありがたみを実感した。

これからは文武両道とともに、ガールスカウトの活動も励んでいきたい。

1団 シニア 坂本 三奈



県連盟ホームページ・Facebook 立ち上げから1年 見えてきたこと
立ち上げ委員会 丸山 久美子



新ホームページ立ち上げのための委員会は2012年12月に発足。コアメンバー5人で8回の会議を重ね2013年3月にFacebook、4月に連盟ホームページが完成しました。

第1回の会議で定めたホームページの目的は ①ガールスカウトの仲間を増やす ②ガールスカウトの周知を図る ③ガールスカウトの活動を紹介する ④会員向けの情報を提供するの4つでした。一年ホームページを運営してきましたが、この度、データを基にして1年の振り返りを行いました。その内容の一部をここにお知らせいたします。

検証1“仲間を増やす”— ホームページを通して入会資料請求が計13件ありました。そのうち実際に入団したのはスカウト5名、SCAPP1名で、現在対応中の2名を含めると8名になります。これは請求件数の全体の61%にあたり、まずまずの成果と言えます。今後は、入会資料請求者全員が入会に結びつくようにするにはどうしたらいいか、よく考え対策をとっていくべきだと考えます。また、なりすましメールやイタズラメールが3件ありました。ホームページにはリスクも伴うことをいつも認識して注意を怠らないことが肝心です。

検証2“ガールスカウトの周知”— 残念ながら、どの程度の周知が図れたかははっきりつかめていませんが、ホームページを定期的に見る保護者がいること、他県連盟の団が見てくれていること、ホームページを見て直接団に問い合わせをした人がいることが分かりました。

また、ネットの世界にある壁は言葉の壁だけで、写真・映像には壁がありません。だれでも行き当たりばったり自由に閲覧できます。今後、活動をホームページ・Facebook等で伝える際には、掲載する写真・内容をよくチェックしていく必要があることを再確認しました。

検証3“ガールスカウトの活動紹介”— 連盟ホームページでは、特に内容を言葉でしっかり伝えるように、そして連盟 Facebook では、リアルタイムで活動を伝えるように心がけてきました。例として連盟 Facebook の“いいね”の回数を挙げます。回数から見ると、(表参照)連盟海外研修アワシャレー到着がトップでした。出発時に思わぬ障害が起きたためご家族はさぞかし心配だったことでしょう。現地で情報をメールで送る者と、こちらでそれらを Facebook にアップする者との連携により、毎日活動紹介がなされ、保護者の心配の軽減につながりました。

上記のように、連盟ホームページ・Facebook は、リスクと抱き合わせであるけれども、うまく活用出来ていることが分かりました。今後更に上手な活用を図っていくよう皆で考えていきましょう。

順位	項目	いいね
1	アワシャレー到着	93
2	スイスベルン到着	49
	アワシャレー3日目	49
3	アワシャレーアドベンチャー	45
	ヤングリーダーキャンプ	45



編集後記

連盟だより『ガールスカウトやまなし』発行が遅

れ申し訳ありませんでした。

Vol.3.4 合併号となりましたが、2013年度の山梨県連盟の活動の集大成をご紹介できたかと思えます。

14年度もスイスチャレンジ、山梨での南関ギャザリング、もちろん各団での活動、いろんなことに挑戦して楽しみましょう。